

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
107-125	高等学校	家 庭	保育基礎	
※発 行 者 の 番 号・略 称	※教 科 書 の 記 号・番 号	※教 科 書 名		
06・教図	家庭 006-901	新保育基礎 ようこそ、ともに育ち合う保育の世界へ		

1. 編修の基本方針

学習指導要領に示された「保育の意義や方法，子供の発達と生活の特徴，子供の福祉や文化について理解し，関連する技術を身に付けるとともに，子供一人一人の発達に適した保育環境を整えることの重要性について思考を深め，地域の保育や子育て支援に寄与できる資質・能力を育成する」ことを目標に編修をしました。主に、次の3点にこだわって編修をしています。

1. 子どもにかかわる職業への関心・意識を高める教科書

保育士や幼稚園教諭をはじめとする、子どもにかかわる職業の方へのインタビューを多数掲載し、職業に関する生徒の関心を高められるようにしました。生徒自身が職業人として子どもにかかわる場面を想定した問いかけなども多く取り入れました。また、各章の導入に設けた漫画で、子どもにかかわる職業の魅力を感じてもらえるように工夫しました。また、保育者のインタビューや保育の様子動画をを用いて、生徒が保育の職業をより具体的にイメージすることができるようにしました。

2. 主体的・対話的で深い学びを実現できる教科書

教科書全体で主体的・対話的で深い学びを实践できるように工夫しています。節（単元）の導入部に、保育の内容について主体的・対話的に考えられる問いかけを設けました。問いかけは、実際の保育現場での子どもたちの写真などを見ながら、生徒が楽しみながら取り組めるような内容にしました。また、節の終わりのまとめコーナーで、学びのふり返りや、学習を深める活動ができるようにしました。章末には、学んだことを生かして協働しながら課題に取り組むページも設けました。

3. 保育に必要な知識・技術が身につく教科書

子どもの心身の発達に応じたかかわり方などを生徒が理解しやすいように、AB判のゆったりとした紙面を生かし、イラストや写真を多く用いて、わかりやすく解説しました。また、全国高等学校家庭科保育技術検定で行われている4つの種目を取り上げ、ポイントや生徒の感想を交えながら、生徒が意欲的に取り組むことができるように工夫しました。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
子どもにかかわる 職業を知ろう！ 子どもにかかわる さまざまな職業の例	・子どもにかかわる職業の方へのインタビュー記事を掲載し、仕事の魅力が伝わるよう工夫しました（第2号）。 ・子どもにかかわる職業における、性別や経歴の多様性を示すために、さまざまな境遇の方のインタビューを掲載しました（第3号）。 ・インタビュー記事以外にも、社会ではさまざまな人々が子どもの生活を支えていることが理解できるようにしました（第2号）。	口絵 4-11 口絵 4-11 口絵 18
1 章 子どもの保育 1 保育の意義 2 保育の環境 3 保育の方法	・男女の育児時間や育児不安などの資料から現代の子育ての課題に気づき、家族の協力や社会の支援の重要性を学べるようにしました（第3号）。 ・子どもが育つ環境の変化に触れて、発達における環境の重要性を理解し、保育者としてどのような環境をととのえる必要があるか考えられるようにしました（第4号）。	10 頁 8、23 頁など
2 章 子どもの発達 1 子どもの発達の特性 2 乳幼児の発育と発達	・子どもの発達の様子を母子健康手帳を見ながら理解できるようにしました（第1号）。 ・子どもの発育・発達には個人差があることを知り、それぞれの子どもに応じたかかわりの重要性を理解できるようにしました。（第2号）。 ・生命の誕生、胎児の発育・発達、乳児から幼児への発達の様子を見て、生命の神秘性を感じ、子どもを大切にする気持ちを持つことができるようにしました。（第4号）。	33 頁 31、50 頁など 46-49 頁
3 章 子どもの生活 1 子どもの健康と生活 2 子どもの食事 3 子どもの衣服と寝具 4 子どもの健康と安全	・母乳の分泌のしくみや乳汁の栄養素比較など、科学的な資料を掲載して理解が深まるようにしました（第1号）。 ・食物アレルギーに配慮した給食・おやつメニューを掲載するなど、子ども一人ひとりの健康・安全を考えられるように工夫しました（第2号）。 ・家庭内や保育施設での危険の事例について学びながら、子どもの安全を守るためにはどうしたらよいか考えられるようにしました。（第1号）。	62-63 頁など 72-73 頁など 90-91、96 頁など

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
4章 子どもの福祉 1 保育にみる児童観 2 児童福祉の理念と法規・制度	・国籍の違う子どもに保育者としてどう接すればよいか、具体例を交えて考えられるようにしました（第5号）。 ・明治時代の日本の人々が子どもとどうかかわっていたか、資料をもとに考えられるようにしました（第5号）。 ・障がいや家庭の事情などから困難を抱える子どもや親を、保育者としてどう支えるべきか、具体例を交えながら考えられるようにしました。（第3号）。	97 頁 100 頁 108 頁
5章 子どもの文化 1 子どもの文化の意義 2 子どもの文化を支える場 3 子どもと遊び 4 子どもの表現活動	・伝統的な玩具と現代の玩具を比べたり、次の世代に伝えていきたい行事・遊びを考えたりする中で、日本の子どもの文化について親しみをもち、これからの文化について考えるきっかけとなるようにしました（第5号）。 ・現代の子どもが遊ぶ時間・空間・仲間を確保しづらい状況を知り、子どもが遊べる環境をととのえるにはどうしたらよいか考えられるようにしました（第4号）。	111、119 頁 120－121 頁
巻末 保育実習に行ってみよう！ 保育技術検定に挑戦してみよう！	・保育実習での注意点や、子どもと接する際のコツ、保育技術検定に取り組む際のポイントなどを、写真等を用いて詳しく解説しました。将来、子どもにかかわる職業に就く・就かないにかかわらず、子どもとの適切なかかわり方が身につくように工夫しました（第1～2号）。	134－139、 140－141 頁
新生児の様子を見てみよう！	・等身大の新生児の写真を掲載し、生徒が全身や手足の大きさを自分と比べながら、生命の尊さを実感できるようにしました（第4号）。 ・助産師の方のインタビューを掲載し、新生児とかかわる職業の重要性を理解できるようにしました（第2号）。	口絵 14－16 口絵 16
3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色		
・誰にでも読みやすい教科書を目指し、大きめの判型でイラストや写真を見やすく配置したほか、ユニバーサルデザインフォントと、ユニバーサルデザインカラーを使用しました。 ・子どもにかかわる職業に対する関心・意欲を高められるように、漫画やキャラクター、伸び伸びと活動する子どもの写真・イラストを多く用い、親しみやすい教科書を目指しました。		

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
107-125	高等学校	家 庭	保育基礎	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
06・教図	家庭 006-901	新保育基礎 ようこそ、ともに育ち合う保育の世界へ		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

学習指導要領に示された科目の目標である「保育の意義や方法、子供の発達と生活の特徴、子供の福祉や文化について理解し、関連する技術を身に付けるとともに、子供一人一人の発達に適した保育環境を整えることの重要性について思考を深め、地域の保育や子育て支援に寄与できる資質・能力を育成する」ことを目指して編修しました。具体的には、以下①～③のポイントに留意して紙面を構成しています。

①子どもにかかわる職業への関心・意識を高める

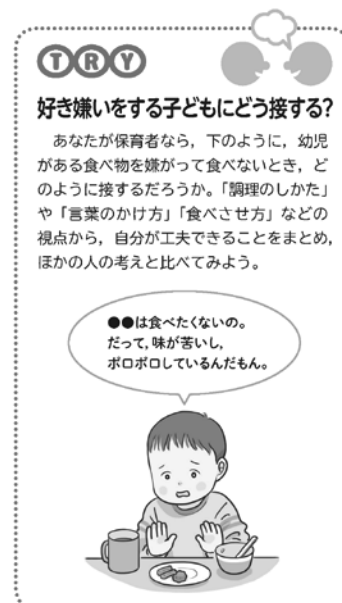
学習指導要領で示された「家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、保育を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を育成する」ことを重視し、以下の工夫をしました。

①職業インタビューの充実

生徒が子どもにかかわる職業への興味・関心を持つことができるよう、保育士や幼稚園教諭など13の職業の方へのインタビューを掲載し、仕事内容や必要な資格、仕事への想いなどを紹介しました。幼稚園教諭のインタビュー動画などから職業を具体的にイメージできるようにしました。

②職業人の視点を意識した問いかけ

子どもにかかわる場面を想定した問いかけなどを随所に設け、職業人として必要な資質・能力の育成につながるようにしました。



▲保育者になった場面を想像しながら
取り組む TRY (p.68 など)

▲職業インタビューページ (口絵4 など)

② 主体的・対話的で深い学びを実現する

教科書には全5章を設け、各章を次のように展開しました。

①章とびら

各章の導入部に保育にかかわる漫画を設け、学習内容や課題をつかめるようにしました。その章でどのようなSDGsの目標を達成できるかについても考えられるように工夫しました。

②節

各章を節で分け、「導入→本文や資料での学習→まとめ」の流れで学べるようにしました。

- ・節の導入では、実際の保育現場の写真などを見ながら、問いかけに答えるコーナーを設け、生徒が保育の課題を発見し、主体的に考えられるようにしました。
- ・ミニワークや実習を行うコーナー「TRY」を多く設けました。TRYは主体的に考えるテーマ、対話で考えを広げるテーマの2種類に分類しました。生徒の取り組みやすさを重視しています。
- ・節の最後にまとめとして、学習した内容をふり返ったり、身近なテーマから学習を深めたりするコーナーを設けました。

③章末

各章末に、学んだことを生かして課題に取り組むページを設けました。実際の保育現場で起こりうるテーマに対し、生徒同士で協働しながら課題解決について考えられるように工夫しました。また、章末の二次元コードの遷移先に収録したふり返りテストでは、生徒が各章の学習内容をふり返って理解を深められるようにしました。



▲章とびらの漫画 (p.5 など)



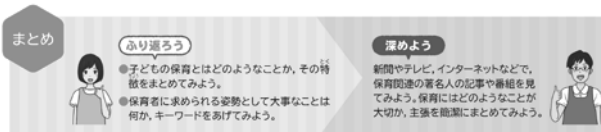
▲TRY アイコン
(主体的な学び)



▲TRY アイコン
(対話的な学び)



▲節の導入の問いかけ (p.7 など)



▲節のまとめ (p.7 など)



▲各章末の課題に取り組むページ (p.26 など)

③保育に必要な知識・技術が身につく

子どもと触れ合う学習を行うにあたり、具体的な技術を身につけられるようにしました。

①わかりやすい資料

TRY や COLUMN、本文の補足資料などを充実させ、子どもの心身の発達に応じた、抱っこや授乳、着替えさせ方などを、イラストや写真を用いてわかりやすく示しました。また、二次元コードからの遷移先として、子どもへのかかわり方に関連する動画やシミュレーション、外部リンクなどのデジタルコンテンツを豊富に用意し、生徒が実感を持って知識・技術を身につけられるようにしました。

②保育実習ページの充実

保育実習を行う際に注意すべき点や、絵本の読み聞かせ、子どもと会話をするためのポイントなどをイラストや写真を用いて詳しく解説しました。

③全国高等学校家庭科保育技術検定の活用

全国高等学校家庭科保育技術検定で行われている4つの種目を取り上げ、種目ごとのポイントや生徒の感想、子どもへの声かけのしかたなどを紹介し、意欲的に取り組めるように工夫しました。

TRY

**子どもを抱っこしてみよう！
おんぶしてみよう！**

子どもは、信頼できる保育者や保護者との身体的な接触やかかわりのなかで安心感を得ることができる（※P.44 愛着）。抱っこやおんぶは、そのようなかわりの基本となるものである。

抱っこ



子どもの足を広げ、大人の体にまたがらせる

子どものお尻の下から手で支える

おんぶ



子どもの足を広げ、大人の背中にまたがらせる

子どものお尻の下から手で支える

抱っこは子どもを大人の前方に抱きかかえる行為であり、対面でのかわりが可能になる。常に子どもの表情、状態を確認でき、視線を合わせることができる。抱っこは新生児から行うことができる。

おんぶは子どもを後方に背負う行為である。子どもの首がすわってからでないと行うことができないので、新生児には向かない。大人と子どもが同じ方向を向いているので、同じものを見ることができる。

▲抱っこ・おんぶなどの技術を身につける TRY（p.53 など）

家庭看護技術

保育人形を使った授乳や検温、衣服の着脱、おむつの交換、幼児役の人を相手にしたけがの手当てなどの技術を問われる。

ポイント

- 手際よく、子どもに無理をさせずに世話をする。
- 年齢・月齢に合わせた世話のしかたに注意する。
- 子どもの気持ちを考えて言葉かけをする。
- 頭髪や爪、服装など、衛生・安全面に注意する。

生徒の感想 幼児役の人に声かけをすることで自分でも手順を確認しながらできたのがよかったと思います。ただ、時限内に終わらせることと手順をまちがえないことに夢中になって、笑顔が足りなかったかなと思います。

階段から落ちちゃったの？
痛かったね。



1級 けがの手当て



ほら、もう大丈夫だよ！

2級 衣服の着脱



前をとめるね。

3級 授乳



たくさん飲もうね。

●子どもの話は遅くまで最後まで聞こう。

●視線を子どもと同じ高さにして話をしよう。

●聞き取りやすいように一言一句ゆっくりと話そう。

②会話



◀▼保育実習での子どもとの会話や、絵本の読み聞かせなどのポイント解説（p.138）

▲保育技術検定に取り組む際のポイント解説（p.140～141）

●子どもが好きな本、興味のあるテーマを選ぼう。

●子どもの想像力を刺激する内容を選ぼう。

●読み手の気持ちも伝わるので、保育者自身も好きな本を選ぼう。

●子どもが聞き取りやすいように間をおき、はっきりとゆっくり発音しよう。

●子どもは話の世界に入り込んでいるので、お話の途中や最後に質問などをしてしまわないようにしよう。

●絵が見えるように、ページをめくったら少し待とう。

●安定した持ち方で、めくる際も手で絵を隠さないようにしよう。

④絵本の読み聞かせ



読み聞かせの前後に、お話の内容と関連する歌や手遊びでいっしょに遊んでみよう。子どもたちの絵本への興味・関心を楽しく高められる。

2. 対照表（2単位）

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
1 章 子どもの保育 1 保育の意義 2 保育の環境 3 保育の方法	(1) 子供の保育 ア 保育の意義 イ 保育の方法 ウ 保育の環境	5-26 頁	10
2 章 子どもの発達 1 子どもの発達の特性 2 乳幼児の発育と発達	(2) 子供の発達 ア 子供の発達の特性 イ 乳児期の発達 ウ 幼児期の発達	27-50 頁	16
3 章 子どもの生活 1 子どもの健康と生活 2 子どもの食事 3 子どもの衣服と寝具 4 子どもの健康と安全	(3) 子供の生活と養護 ア 乳幼児期の生活の特徴と養護 イ 生活習慣の形成 ウ 健康管理と事故防止	51-96 頁	18
4 章 子どもの福祉 1 保育にみる児童観 2 児童福祉の理念と法規・制度	(4) 子供の福祉 ア 児童観の変遷 イ 児童福祉の理念と関係法規・制度 ウ 子供の福祉を支える場	97-108 頁	6
5 章 子どもの文化 1 子どもの文化の意義 2 子どもの文化を支える場 3 子どもと遊び 4 子どもの表現活動	(5) 子供の文化 ア 子供の文化の意義 イ 子供の遊びと表現活動 ウ 子供の文化を支える場	109-132 頁	10
巻末 保育実習に行ってみよう！ 保育技術検定に挑戦してみよう！	(1) 子供の保育 イ 保育の方法 (2) 子供の発達 ア 子供の発達の特性 (3) 子供の生活と養護 ア 乳幼児期の生活の特徴と養護 (5) 子供の文化 イ 子供の遊びと表現活動	134-141 頁	10
		計	70

(発展的な学習内容の記述)

ページ	記述	類型	関連する学習指導要領の内容 や内容の取扱いに示す事項	ページ数
合計				0

- 4 「類型」欄には、申請図書における発展的な学習内容の記述について、以下の分類により該当する記号を記入する。
- ・ 学習指導要領上、隣接した後の学年等の学習内容（隣接した学年等以外の学習内容であっても、当該学年等の学習内容と直接的な系統性があるものを含む）とされている内容……1
 - ・ 学習指導要領上、どの学年等でも扱うこととされていない内容……2